

FREE

ご自由にお持ちください。

No.835
2023 April

4

岐阜県の森林・林業

も り
森林のたより



News of the forest



「ぎふ森のある暮らし推進協議会」設立総会が
開催されました



●詳細は4ページをご覧ください



編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
3月1日(水)~ 5月31日(水)	緑の募金(春期)	「緑の募金で進めようSDGs」をスローガンに家庭募金、企業募金、職場募金などを行います。	公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL 058-273-7577



イベントカレンダー(一般向け).....	2
「岐阜県木の国・山」国県産材利用促進条例が施行されました.....	3
「ぎふ森のある暮らし推進協議会」設立総会が開催されました.....	4
「ぎふ木育指導者交流会」を開催しました.....	5
山の歳時記(2) 木炭Ⅲ.....	6
山のおしよまつり(381).....	7
「トランプを仕掛けたI氏、引っ掛かったのは私」.....	7
ぎふ木遊館通信.....	8
morinosプログラム紹介!!.....	9
木の香るぎふの施設(121).....	10
DAIMARUパークセンターハウス.....	10
森林と人を活かす知恵(123).....	11
ZEHの標準化で木造建築が注目.....	11
令和5年度「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用した事業の全体計画.....	12
研究コーナー ぎふ森林情報WebMAPを活用して.....	13
山地災害リスクを把握する.....	13
普及コーナー 再造林技術研修を開催しました.....	14
スマート林業通信(34).....	15
OWLの使い方を再確認してください.....	15
国有林の現場から(78).....	16
国有林における貴重な森林生態系の保護への取組.....	17
国会議事堂への県木「アチ」植栽(後編).....	17
林業者向けお知らせ.....	18
市況.....	18

目次 Contents



表紙●詳細は4ページをご覧ください。

「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」を施行しました

県では、県産材の利用を促進するため、令和4年第5回岐阜県議会定例会に「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」を上程し、議決を経て、令和5年4月1日に条例を施行しました。

今後は、条例に基づき、「オール岐阜」体制で県産材の利用を進めてまいりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例 概要

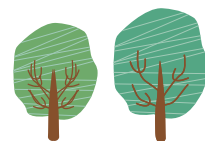
目的(第1条)

県産材の利用の促進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、事業者及び県民の県産材の利用について理解を深め、もって「脱炭素社会の実現」、「循環型社会の形成」及び「地域経済の活性化」に寄与することを目的とする。

基本理念(第3条)

県産材の利用の促進は、次に掲げる事項を旨として行わなければならない。

- ①将来にわたり継続的に県産材の利用が図られること。
- ②森林を次世代へ継承するため、持続可能な森林の経営管理が図られること。
- ③県産材の経済的な価値の増加が図られること。



関係者の責務等(第4条～第8条)

- ①県の責務：県産材利用の促進に関する施策を総合的かつ計画的に推進、関係者との連携、市町村への協力
- ②森林所有者の役割：その所有する森林の適正な整備及び保全
- ③事業者の役割：他の事業者との連携による県産材の利用及び県が実施する施策への協力 等
- ④県民の役割：県産材の利用についての理解及び日常生活における県産材の積極的な利用

基本的施策

県産材利用推進計画(第9条)

県産材利用の促進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、推進計画を定める。

- 推進計画に定める事項
 - ・県産材の利用の促進に必要な施策に関する基本的事項
 - ・県産材の利用の促進に関する目標 等

県産材の利用の促進に関する施策(第10条～第24条)

- ①建築物等における県産材の利用の促進
 - ・建築物等の木造化及び木質化に対する支援等
 - ・備品、家具等の購入に対する支援等
- ②県の建築物等における県産材の利用
 - ・建築物等の建築又は設置に当たっては、推進計画で定めるところにより木造化及び木質化を実施 等
- ③相談体制の整備
- ④県産材利用促進協定
 - ・事業者の県産材利用の促進に関する構想と県による構想の達成に資する支援等を定めた協定の締結
- ⑤県産材の安定的かつ持続的な供給の確保
 - ・加工及び流通に係る施設の整備
 - ・需給に関する情報の共有の円滑化 等
- ⑥法令に適合して伐採された樹木を材料とする県産材の流通及び利用の促進
- ⑦県産材等の販路の拡大
 - ・事業者が行う販売及び輸出に対する支援
- ⑧木質バイオマスの利用の促進
 - ・木質バイオマスの多段階の利用の促進
 - ・新分野における利用の促進
- ⑨研究開発及び普及
- ⑩人材の育成及び確保
 - ・林業・木材産業を担う人材の育成及び確保
 - ・建築物等の建築又は設置に必要な知識又は技術を有する設計者等の育成及び確保
- ⑪炭素貯蔵量の認定
 - ・建築物等及び木製品に利用された県産材の炭素貯蔵量の認定及び公表
- ⑫普及啓発
 - ・「ぎふ木育」の推進等による普及啓発
- ⑬表彰
 - ・県産材の利用に関する顕著な功績等に対する表彰
- ⑭財政上の措置
- ⑮実施状況の公表

「ぎふ森のある暮らし推進協議会」 設立総会が開催されました

令和5年1月27日(金)に、岐阜県庁舎ミナモホールにて、「ぎふ森のある暮らし推進協議会」(以下、「協議会」)の設立総会が開催され、約200名が参加しました。

協議会の名称について

協議会は、県内の森林空間を様々な分野で、森と親しみ活用していく、いわゆる「森のある暮らし」を提案し、県内の「森林サービス産業」を盛り上げ、岐阜県をアウトドアの聖地にしていくという思いが込められています。

協議会の設立趣旨

近年、人々の価値観やライフスタイルの変化に伴い、森林空間を積極的に活用したいという期待が高まり、森林へのニーズは多様化しています。このため、岐阜県の豊かな価値を有する森林空間を健康、観光、教育等の多様な分野で活用する「森林サー

ビス産業」を育成し、山村地域における新たな雇用と収入機会を創出することを目的としています。

設立総会の概要

【オープニングコンサート】

設立総会に先立ち、県内森林の四季の映像を背景に、ミュージシャンの伊藤智美氏によるギター演奏のコンサートが行われました。



オープニングコンサート

【来賓挨拶】

来賓として、古田肇岐阜県知事及び林野庁森林整備部森林利用課山村振興・緑化推進室の安高志穂室長よりご挨拶をいただきました。

【設立宣言・協議会の概要説明】

設立準備委員会において委員長を務められた、トヨタ白川郷自然学校の山田俊行学校長に、「一人の五感でリアルに自然を体験することへの社会的必要性和ニーズが高まっている。民間事業者が中心となり、行政等と連携し、県の大切な資源である森林空間を活用した産業の成立に向けた行動を起こす。」と協議会の設立を宣言いただきました。

続いて、設立準備委員会の委員である、恵那市林政課の安藤学課長に、協議会の概要をご説明いただきました。



来賓挨拶



設立宣言

【議事】

事務局より、第1号議案として「協議会規約(案)」についての説明があり、拍手多数により承認されました。

また、協議会の今後の予定についても説明されました。

【記念講演】

設立総会終了後には、岐阜県森林文化アカデミーの涌井史郎学長による記念講演「ぎふ森のある暮らしへ！—森林サービス産業が目指すべき進路—」が行われ、森林サービス産業を推進する社会的な必要性や、森林サービス産業の今後の可能性についてご講演いただきました。

協議会の今後について

協議会は、県内の森林サービス産業事業者、林業関係者、行政など設立時点で128者の会員が集まりました。

今後は、会員からの要望を基に令和5年度の事業計画案を策定し、5月に開催予定の第1回総会での審議を経たうえで事業を開始していきます。

会員の募集は随時受け付けておりますので、ご興味のある方は左記までお問い合わせください。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 058-272-8472

ぎふ森のある暮らし推進協議会事務局

(岐阜県森林活用推進課森林サービス産業支援係)まで

「ぎふ木育指導者交流会」を開催しました



県では、「ぎふ木育」として、森林との関わりから未来を担う人材を育成する取組みを進めています。

このたび、県内各地で木育や自然体験活動等を実践している団体や指導者の連携・ネットワーク化の促進を図ることを目的に、令和5年1月29日(日)に岐阜県立森林文化アカデミーにおいて「ぎふ木育指導者交流会」を開催しました。

交流会には、オンラインも含め60名の参加がありました。この中には、岐阜県と木育・森林環境教育の推進について連携している富山県、滋賀県の団体や指導者の参加もあり、岐阜県で行っている「ぎふ木育」の取組みを他県に紹介するよい機会となりました。

～交流会の様子～

ぎふ木育の活動に係る事例紹介

① 森のようちえんの活動について

発表者：伊東 未由氏
(ぎふ森 遊びと育ちネットワーク 代表理事)

② プレーパークの活動について

発表者：千先 佳津恵氏
(よっといで!@北地区 代表)

③ ぎふ木育ひろばの活動について

発表者：加藤 志保氏
(うれしの東保育園 園長、ぎふ木育指導員)

④ ぎふ木遊館におけるぎふ木育指導者の仕事内容について

発表者：後藤 真希氏
(ぎふ木遊館 主任技師)

- それぞれの活動発表後、その発表内容について、できるだけ多くの参加者と意見交換を行い、活動内容を通した「気づき」を共有し、交流を図りました。



田口 眞嗣氏

(株式会社 ON-WIPPS 代表取締役) による研修

テーマ：子ども向け体験プログラムにおける安全管理



- 安全の三大要素やリスクのチェック方法などの講義を通じて、事故や怪我が発生する要因や対策など、重要なリスクマネジメントについて学ぶ、よい機会となり、参加者からも大変好評でした。



主催：岐阜県

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(4347) 森林活用推進課木育推進係まで



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

「川尻さん、鍛冶炭（かじずみ）って知っているかい」、飛騨市河合町で黒炭や鍛冶炭を焼いておられる佐々木弘美さんに聞かれました。佐々木さんには木材搬出の手櫓や木馬でお世話になり、その際に出た木材も炭に焼かれており、炭の話になったのです。鍛冶炭とは簡単に言えば、消し炭のような柔らかい炭で、最近では少なくなつた鍛冶屋さんが使用する炭です。一般的に私たちが思い浮かべる

炭は、調理用や暖房用の炭ですが、武田信玄や豊臣秀吉、前田利政らも愛用した名刀「関の孫六（孫六兼元）」など、刀鍛冶にも鍛冶炭が必需品でした。

木炭は酸化還元反応が大きく、不純物が少なく、吸着性が大きいという特性があり、この特性を利用した金属精錬法が「たたら吹き製鉄法」です。たたらでは砂鉄と木炭を炉に入れて燃焼させ、砂鉄を還元して鉄を精製します。木炭を還元剤に利用すると、不純物の少ない刃物鋼（銑鉄）が得られ、こうして得られた鉄は「木炭銑」とも呼ばれる世界に類を見ない独特な製法です。

江戸時代に下原重伸が記した『鉄山必要記事（1784年）』には、「一に粉鉄（砂鉄）、二に木山、三に元釜土」と、たたら操業では木炭は砂鉄に次いで2番目に重要なものと記されています。

また同書には、たたら炉で鉄を

精錬するための木炭は「大炭」、鍛冶に用いる炭は「小炭」と記されています。つまり小炭とは鍛冶炭なのです。

大炭にはマツやコウヤマキ、クリの太径木が良く、シデやコブシ、サクラは悪く、シイノキなどは最悪とされます。マツやクリの大木は大きな炭窯で、黒炭より低い温度で蒸し焼きにし、炭素が60%以下、揮発分30%以上という炭化が不十分な木炭に仕上げます。こうして仕上げた木炭は火力を上げるのに都合が良かったのです。

一方、鍛冶用の小炭にはマツやクリ、スギが良く、シデやシイは良くないとされました。小炭の焼き方は地面を掘り込んだ凹地に木を積む伏せ焼きです。マツやクリの小炭はリン成分が0.02%以下と少ないため、特に刀剣類の鍛錬ではねばりが強く刃こぼれしないとされました。また小炭は軟質で燃焼速度が速く、高温になり易い

反面、空気を止めると火が落ち着きやすい立ち消え性があるため管理し易いのです。

余談ですが、747年に始まった奈良東大寺の大仏鑄造では、アマルガムから水銀を除去する目的と、銅を溶かす熱源として約800トンもの木炭が利用されたと推測されています。

日常での木炭利用が疎遠な現代とは言葉、木炭無くして日本の歴史は語れないのです。



▲関鍛冶伝承館で日本刀鍛錬用の鍛冶炭をおこす



山のおじゃまむし



—トラップを仕掛けたI氏、引っ掛かったのは私—【第381回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

令和5年1月15日。荷物が届いた。差出人は福井県のI氏。荷物の中身は小型の標本箱。蓋を開けるとたくさんのゾウムシ。しかもほとんどが5mm以下。しかし、手紙が入っていない。あるのは返信用の料金支払い済み伝票のみ。私はピンときた。そして「やられた！彼の方が役者が上だ」と思った。その理由。I氏はこのゾウムシを調べてもらいたい。しかし、小さなものばかりで時間がかかる。嫌がられるだろう。電話ではお願いしづらい。だからいきなり返信用料金支払い済み伝票を入れて標本を送ってきたのだ。これに間違いないと思った。I氏とは何十年も付き合っている虫ともである。しかも歳は二つ上。こうまでされて断ることはできない。しかし、すぐには返事が出来なかった。歳とともに目が悪くなり、小さなものは見づらくなっているからである。それに私自身、前にくらべゾウムシに対する熱意が失せてきているからである。この事情を話して断ろうかと思ったが、できなかった。断ればI氏に悪いし、それ以上に私自身のプライドに傷がつく。引き受けることにした。これはI氏にすれば予定通りの筋書き。私にすればI氏の仕掛けたトラップの餌食になったようなもの。思わず笑えてきた。



▲届いたゾウムシ標本

× × × ×

標本箱の中には小さな虫がたくさん入っている。しかし、肉眼ではぼやけてよく見えない。そこで、顕微鏡のレンズの倍率を変えて大写しにする。翅の色や毛の長さ、表皮の凸凹が見えるようになった。これなら早くできそうだ。ところが落とし穴があった。やはり私の目。細かいものを見続けていると眼がかすんでくるのである。調べるポイントとなる脚の刺の数や翅の穴の数などはピントがあわず時間がかかってしまう。しかも調べるときは集中している。2時間続くとくたくた。それでも初めの頃は無理して4時間以上調べた。それでも名前のわかるものは少なかった。喉元まで名前が出てきているのに、それが思い出せないのである。何十年も追いつけてきたゾウムシ。頭の中にはその記録と思い出がいっぱい詰まっている。私の大事な宝物である。それを忘れていた自分。情けなくなった。これは自分の頭のタガが緩んでいるからだ。これを締めなおさなければ駄目だと思った。このゾウムシはI氏から頼まれたから仕方なく調べている。こんな感覚であったが、そうではなく自分の勉強だと心に決め顕微鏡を覗いた。今までに採集している自分

の標本と比べながら1匹ずつ調べた。かなり時間がかかりそうであったが、苦痛とは思わなかった。

× × × ×

顕微鏡を覗いていると、すぐに飽きてくる。胸が熱くなるようなものがないからである。それでも顕微鏡を見続けた。そのうちに昔の勘が戻り、わかるようになってきた。名前がわかると嬉しかった。これが徐々に増えてきた。そして、終了。2月19日だった。この時は「終わった！」と心の中で叫び、ほっとした。I氏の顔が目に見えかてきた。約束が果たせたからである。このお陰で自分の「緩んでいたタガが締まった」と嬉しくなった。それにしてもI氏の虫に向ける情熱はすごいと思った。I氏は私より2歳年上。それなのに今でも採集にでかけ、ゾウムシを採ると私のところへ送ってくる。私にはそんな気力は残っていない。私がI氏に初めて会ったのは30数年前の日本林学会。その時私はゾウムシに興味を持っていると話した。この時からゾウムシ標本が届くようになった。名前を教えてほしいというもので、これが今も続いているのだ。ある日、30kgの米袋が届いた。実家で作ったもので、ゾウムシでは世話になっているからだという。これが数年続いた。もらえばなしでは悪いと思い、飛騨のリンゴを送ったことがある。米とリンゴの組み合わせ。今思えば、笑えるような懐かしい話である。忘れることのできないのが小笠原諸島へ採集に行ったこと。ゾウムシの権威者である故M博士が調査に行かれるので、これに加えていただいたのである。これは楽しかったし、勉強になった。朝から夜間まで虫採り。採った虫はほとんどが初めて目にするものばかり。そして夜遅くからの宴会。成果を自慢しながら飲む酒は本当においしかった。平成8年だからもう27年前の話だ。

× × × ×

I氏のお陰で頭のタガは締まったが、やはり前のようにゾウムシ採りに行く気にはなれない。それは私自身が今頭を痛めているからだ。このたくさんの標本をどうするかである。私としては博物館や大学などで引き取ってもらいたいのだが、学術上価値ある種や超珍品ならOKというところがあるくらいだ。しかし、私としてはできない。どの虫も思い出のある虫だからである。このことについて高齢者数人と話し合った。しかし、答えがあるはずがない。結局、考えても仕方がない。「何とかなさ」となった。私はこのことをI氏にも聞いてみたかったが、それは止めた。今でもやる気満々のI氏に言い出せなかったからである。





ぎふ木遊館通信



2月5日（日）に、名誉館長の竹下景子さんをお招きして、ウインターフェスタを開催しました。

メインの企画は、竹下名誉館長、吉成信夫さん（みんなの森ぎふメディアコスモス総合プロデューサー）のクロストーク。「宮沢賢治さんからのメッセージ～子ども・自然・木育～」をテーマにお話しが盛り上がりしました。

前半は、竹下名誉館長に4つの宮沢賢治作品を朗読していただきました。宮沢賢治さんの自然に触れる感性や独特な自然描写を紹介し、倉本聡さん、C・W・ニコルさん、谷川雁さんなど、お二人が慕う方々のエピソードも交え、私たちの自然との付き合い方、心豊かに暮らすための心持ちなどについて語っていただきました。

後半は、「森はファンタジーや夢の生まれるところ」というテーマで吉成さんの岩手での実践を紹介していただきながら、子どもたちの感性・想像力を引き出す体験の魅力を語っていただきました。

最後に、竹下名誉館長が宮沢賢治さんの詩「あすこの田はねえ」を朗読し、デジタル社会がどんどん進む中で、これからの子どもたちにも体感・体験を経た学びが必要だというメッセージをいただきました。

クロストークの様子は、ぎふ木遊館 YouTube チャンネルで公開していますので、ご興味のある方は、ぜひご覧ください。

ぎふ木遊館
YouTube チャンネル
二次元コード



トークの後には、竹下名誉館長と吉成信夫さんのお二人に『スプーンクラブ（本誌 2022 年 6 月号参照）』に参加してもらい、来館者と一緒に木のスプーンを作っていただきました。下記は参加者の感想です。

『木がこんなにもやわらかく削れるという感覚が初めて。おもしろい』

『ナイフはこわいというイメージだったが、安全に使えるものとわかった』

『最近忙しく過ごしていたので、ひたすら木を削り無心になってリフレッシュになった』

2時間集中して削り、あっという間に時間が過ぎました。竹下名誉館長が一番熱中していたように思います。

木育ひろばでは、さとやまさん（ひろばの見守りスタッフの愛称）による歌あそびが催され、ぎふ木遊館長のギター生演奏をバックに、みんなで一緒に手遊びを交えながら歌いました。季節は冬ですが、なんだかとてもあたたかな雰囲気に包まれた時間でした。

木工室では、木育プログラム『ヒノキの豆雛づくり』。講師は、木遊館では糸鋸プログラムでおなじみの「くるまだち木工室」の草野さん。子どもたちの作業ペースにじっくりと寄り添います。たくさん並んだ東濃ヒノキの丸い板から自分の好きな物を選び、紙やすりでカクカクバリバリしているところをマルマルに削り、好きな色を塗ります。東濃ヒノキの肌触りや香りを感じながら、世界に1つだけの雛人形を作りました。毎年飾るのが楽しみになることでしょう。



クロストーク



スプーンクラブ



さとやまさんの歌あそび



ヒノキの豆雛づくり



やがてみんなの森になる

morinos

morinosプログラム紹介！！

岐阜県立森林文化アカデミー内にある森林総合教育センター（morinos）で実施しているプログラムについてご紹介します！

<ツキノワグマの掌・足剥製標本づくりを開催しました>

morinosでは、森に親しむ入口となる様々なプログラムを開催しています。今回ご紹介するのは「ツキノワグマの掌・足剥製標本づくり」です。

ニホンジカなど野生鳥獣による森林被害や交通事故が増加する中、有害駆除されるニホンジカやツキノワグマは、一部がジビエ料理などで有効利用されるものの、他はほとんど利用されません。中でも足は有効利用されることはなく廃棄物として処分されてしまいます。そこでツキノワグマの掌・足の有効利用として剥製標本をつくる2日間のプログラムを実施しました。

今回は1人でツキノワグマの掌と足（つまり前足と後ろ足）の両方を剥製標本にします。寄生虫などの感染予防のため-20℃で60日ほど冷凍保存してあるものを使用します。

1日目はメイン講師の田中正至さんが、皮にナイフを入れる位置、皮を剥ぐ時の刃物の持ち方、肉の削ぎ方など細部にわたって指導されました。皮を剥ぎ、肉を削ぎ、骨を抜くことができると剥いだ毛皮を1つの容器に入れて、洗濯洗剤を入れて、全員で踏み洗いし、翌週まで鞣（なめ）し液に浸します。



通常は廃棄されるシカ・イノシシ・クマの足（掌）



皮を剥ぎ、肉を削ぎ、骨を抜いています



鞣（なめ）し液に浸す前の状態

1週間後の第2回は、鞣し液につけておいた毛皮を洗うことから始まります。糸用の洗剤で洗濯し、トリートメント処理、最後に脱水機にかけたら縫合の準備は完了。三角針（革針）と蠟引きの麻紐を使って真剣に縫っていきます。ツキノワグマの年齢によって皮の固さが異なります。



三角針（革針）と蠟引きの麻紐で
真剣に縫っていきます。



完成した標本（右が前足、左が後ろ足）



ご夫婦で参加 縫合した掌

「足ってこんな形をしているんだ」「関節ってこうなってるの?」「こっちが前?こっちが後ろ?」「肉球が柔らかい」などなど様々な感想が飛び交いました。野生鳥獣の体に実際に触れることはなかなかできない経験です。さらに自然に、森林に興味を持っていただけると嬉しいです。

こうしたプログラムはmorinosのHPで開催をお知らせしています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。興味を持ってくださった方は、morinosのホームページ、動画YouTubeをご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開所時間 10:00~16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」

DAIMARUパークセンターハウス

土岐市土岐津町土岐口字中山1372-1



施設全景

施設概要

事業年度	令和4年度
事業主体	大丸開発株式会社
構造 延床面積	木造2階建(岐阜県木連 木造平行弦トラス) 630.65㎡
施設用途	商業施設
木材使用量 使用樹種	90.46㎡(うち県産材86.49㎡(95.6%)) ヒノキ、スギ
全体事業費	110,550千円
助成額	30,000千円
設計者	レンスタイル株式会社
施工業者	丸仲建設株式会社
工期	R4年6月～R4年9月



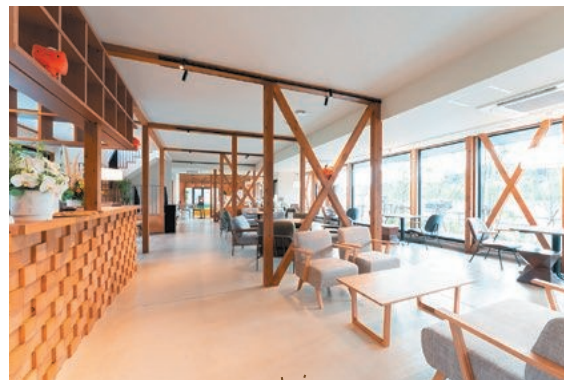
外観

施設の経緯

DAIMARUパークセンターハウスは、土岐市の大型商業施設の中に位置し、住宅・不動産相談ブースやカフェブースを設けています。



住宅相談ブース (キッズスペース)



カフェ

ここに注目!!

岐阜県木連 木造平行弦トラス(ハリーさん)は、岐阜県産ヒノキの一般製材品を組み合わせて製作したトラス梁で、最大12mの無柱空間を作ることができます。

当施設では、建物正面(南北方向)に10.9mスパンを3つ構え、東西方向にも、8.9mスパンの空間を確保し、建物内外ともにトラス梁の構造を見ることができます。

利用者の様子

利用者は幅広い世代の方々に、広々と使って頂いており、にぎわいの中心施設となっています。

■問い合わせ先
大丸開発株式会社
TEL 0120-259-678

ZEHの標準化で木造建築が注目

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 辻 充孝

近年、「ZEH(ゼッチ)」つまりネットゼロ・エネルギー・ハウスという言葉が注目を集めているのをご存じでしょうか。

1. 居住時のエネルギー

このゼロエネルギーは、居住時のエネルギー(電気、ガス、灯油)がゼロの建物のことです。

特に最近では、電気やガスの高騰がニュースになり、実感としても値上がりを感じている方も多くはです。居住時のエネルギーがゼロということは光熱費もゼロ^{※1}。電気代の値上がりにより振り回されることもありません。こんな素晴らしい家はどこか夢の話にはありません。現実には新築(2020年度)の1/4がZEHの性能^{※2}になっています。ZEHを作るのは難しいことではありません。省エネを押し進め、太陽光発電などの創エネで、使用するエネルギー以上の電力を生み出せばZEHになります。

国としても2050年のカーボンニュートラル達成に向けて、国交省、経産省、環境省の合同ロードマップで2030年には

新築建物はZEHを目指すと言われてます。そのため、数年の内にZEHが標準化されていくでしょう。

2. ライフサイクルで考える

住宅のライフサイクルで考えたエネルギーは、居住時が6〜8割を占めます。そのため、居住時のエネルギーがゼロのZEHが注目を集めているのです。(図1)

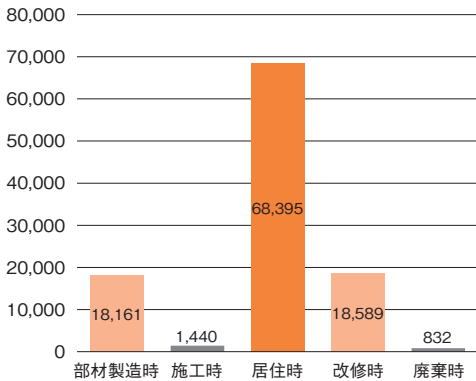


図1 50年居住した場合の木造住宅のライフサイクルエネルギー [MJ/年]

日本のエネルギー自給率は12%しかありません。つまり生活基盤の9割近くを海外に依存しています。自給率向上には、エネルギー消費を減らし、創エネを増やすしかありません。ZEHで居住時のエネルギーを削減するのは当然と言えます。

居住時エネルギーの内訳は、給湯が1/3程度を占め、家電や暖房、照明が続きます。(図2)

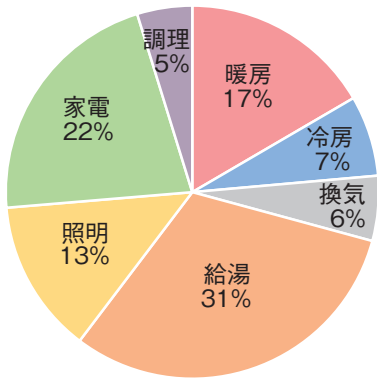


図2 一般的な暮らし方の居住時のエネルギー消費の内訳

つまり、省エネの最重要項目は給湯です。太陽熱温水器の活用や高効率エコキュート、節水型水栓や高断熱浴槽等の活用で半減できます。省エネ家電やLED照明、断熱強化で暖房を減らすことも忘れてはいけません。

そのうえで、日射が十分に当たる立地であれば太陽光発電を載せることでZEHに向かっています。

3. ZEHで木造建築が注目

このように近い将来はZEHが当たり前の時代が待っています。そうなるので、図1の居住時のエネルギーがゼロになるので、さらなるエネルギー削減には、部材製造時や改修時の対策が中心になってきます。

これは木造建築が非常に有利なのです。製造エネルギーは鉄骨造や鉄筋コンクリート造の半分程度ですし、数百年積み上げてきた過去の知見から躯体の改修も比較容易です。廃棄時にもエネルギーが少なく済みます。

世界の最先端建築のトレンドは木造建築に移行しました。各地で持続可能な建築資材を上手く活用した魅力的な空間が次々と生まれています。木造住宅や木造建築はこれからさらに求められていくでしょう。

※1 実際には、買電、売電の単価の違いやエネルギーと光熱費の原単位の違いでゼロではないこともありますが、かなり小さくなることは確かです。
 ※2 ZEHにはNear ZEHやNEH Orientedなど、ランクに応じて3つのバリエーションがあり効果も異なります。

令和5年度「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用した事業の全体計画

県では、豊かな森林や清らかな川を守るため、平成24年度から「清流の国ぎふ森林・環境税」を導入し、5年ごとに見直しをしながら、自然環境の保全・再生に向けた取組みを進めています（第1期：平成24～28年度、第2期：平成29年度～令和3年度、第3期：令和4年度～令和8年度）。令和5年度の「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用する事業については、以下を予定していますのでお知らせします。

事業名	事業の概要	計量量	予算額 (千円)
I 森林部門			
環境保全林整備事業	「環境保全林」内の人工林の間伐等森林整備	(人工林の間伐等)	2,100ha 328,110
里山林整備事業	①危険木の除去		70箇所 150,000
	②バッファゾーン整備		40箇所
脱炭素社会に貢献する森林づくり事業	①造林未済地等での早生樹等の植栽等	(植栽等整備)	20ha 50,000
	②森林吸収源対策	(研究会等 説明会等)	9回 1回 7,000
教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業	①木造化・内装木質化		6施設 65,000
	②木製品の導入		20施設 25,000
木質バイオマス利用促進事業	①木質バイオマス利用施設の導入	(ボイラー ストーブ)	1施設 30台 15,000
	②未利用材の搬出		4,500t 8,000
ぎふ木育推進事業	①-1 ぎふ木遊館の管理・運営	(施設入館者数)	30,000人 79,077
	①-2 ぎふ木育の全県展開	(ぎふ木育サポーター登録者数(累計))	250人 69,953
	②ぎふの木を使った教材の導入		60施設 4,000
	③森や木、川に関する環境教育やぎふ木育教室の開催等	(緑と水の子ども会議等参加者数 市町村企画数)	6,800人 11件 35,861
森林空間活用促進事業	①観光道路周辺の観光景観林の整備		100ha 30,000
	②森林空間の活用を図るための施設の設置・改修		8施設 27,000
	③森林空間を活用した活動の普及促進	(ぎふ森のある暮らし推進協議会 会員数(者)累計)	70者 1,922
II 環境部門			
野生鳥獣個体数管理事業	①ニホンジカの個体数管理を目的とした捕獲等		7,000頭 120,000
	②カワウ、カワアイサ及びサギ類の個体数管理を目的とした捕獲		1,000羽 24,700
	③大学等と連携して行う野生動物管理に関する調査研究等	(市町村等への技術指導)	10件 21,000
自然生態系保全・再生事業	①上下流域が連携した河川清掃活動		20河川 30,000
	②河川魚道の改修及び適切な維持管理	(健全な魚道の割合)	80% 45,000
	③水田魚道の設置等による水みち連続性確保及び効果検証		4地区 7,000
	④生物多様性の保全・再生の普及啓発	(シンポジウム等の開催)	14回 2,000
	⑤生態系保全・再生に係る活動支援	(団体・市町村支援数)	24件 44,000
脱炭素社会ぎふづくり事業	①脱炭素社会ぎふを支える人づくり	(体験プログラム等参加者数)	500人 22,000
	②地域循環共生圏構想の促進	(地域循環共生圏づくり プラットフォーム登録団体数)	5団体 5,000
III 共通部門			
清流の国ぎふ地域活動促進事業	各種団体等が行う森林づくりや水環境保全等の活動支援		50件 30,000
その他			
清流の国ぎふ森林・環境税推進事務費	森林・環境税事業に係る普及啓発等		一式 3,500
合計			1,250,123

今年度も各事業の取組み状況を毎月掲載します。

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8472 森林活用推進課森林活用係まで

ぎふ森林情報WebMAPを活用して 山地災害リスクを把握する

森林研究所 ● 白田 寿生

はじめに

近年、気候変動の影響による大雨が増加傾向にあり、斜面崩壊などの山地災害の発生リスクが高まっています。

そこで、当所では、山地災害リスクをわかりやすく示すための地図情報の整備を進めており、その成果を当所ウェブサイト内の「ぎふ森林情報WebMAP」で公開しています。

今回は、その具体的な活用方法について、平成30年に県内で発生した斜面崩壊の事例を取り上げながら解説します。

斜面崩壊が発生しやすい場所の特徴 (崩壊3条件)

当所が県内の斜面崩壊発生箇所で行った調査結果(森林のたより第794号参照)や文献などから、山地における斜面崩壊は、次の3つの条件が重なる場所で発生しやすいと考えられます。

①急傾斜地(特に30度以上)

斜面崩壊は林地の傾斜角度が25度以上の場所が発生することが多く、30度以上では特に発生しやすくなります。

②地盤が風化し、土層が厚い場所

断層運動等により地盤の風化が進行し、土層が厚くなった場所では、崩壊が発生しやすくなります。また、風化が進行し、土層がさらに厚くなった場所では、土塊がゆつくりと移動する地すべりが発生することもあります。

③水が集まりやすい場所

地表面がへこんだ凹地形および断層運動により地盤が破碎された箇所など地下水が集まりやすい場所では、大雨の際に土層に含まれる水分量が著しく増加し、崩壊が発生しやすくなります。

県内で発生した斜面崩壊の事例

ここでは、平成30年7月豪雨の際に県内で斜面崩壊が発生した場所をぎふ森林情報WebMAPで確認してみましょう。

図1は林地の傾斜角度を色で示す「傾斜区分図」です。崩壊地の傾斜角度は35〜40度であり、崩壊が発生しやすい条件であったことが確認できます。(崩壊条件①)

図2は崩壊地の場所に断層の位置を示す線と地すべり地形を重ねたものです。崩壊地は断層に近接しているとともに地すべり地形内の末端に位置していることから、地盤がもろく、土層が厚くなっていた可能性が

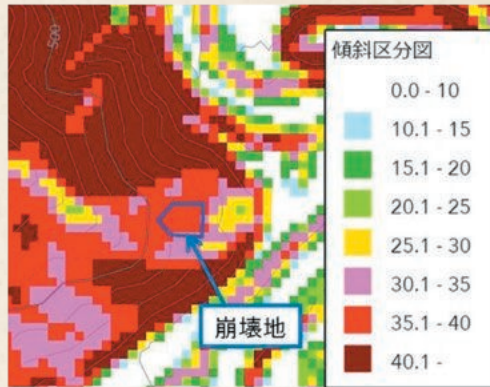


図1. 崩壊地付近の傾斜区分図
(ぎふ森林情報WebMAPの地図から作成)

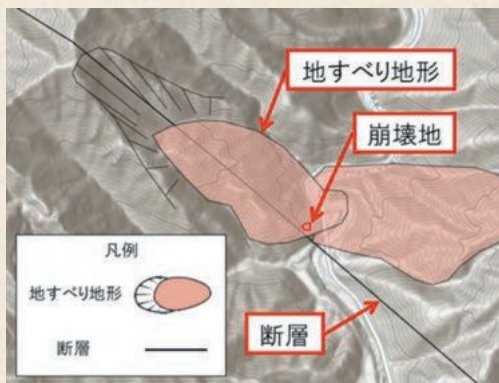


図2. 崩壊地付近の断層と地すべり地形
(ぎふ森林情報WebMAPの地図から作成)

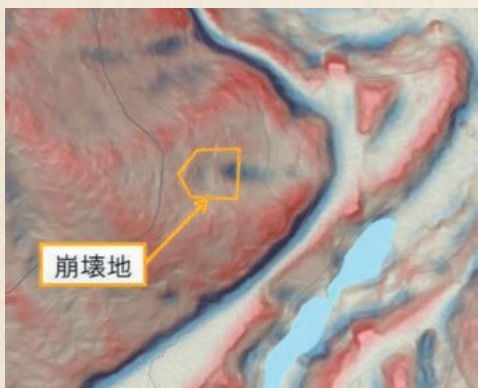


図3. 崩壊地付近のCS立体図
(ぎふ森林情報WebMAPの地図から作成)

地図情報から崩壊が起こりやすい場所の3条件を確認できる事例が多くみられます。

おわりに

山地災害による被害を減らすためには、ぎふ森林情報WebMAPの情報などから山地災害が発生しやすい場所をあらかじめ把握し、大雨に備えた対策を実行することが重要です。また、災害リスクが高い場所では、道の作設のような地形改変や樹木根系による斜面崩壊防止機能を大きく低下させる皆伐は極力回避するといった配慮も必要です。

ぎふ森林情報WebMAPでは、今回紹介した地図以外にも森林管理などに役立つ地図情報をご覧いただけますので、ぜひご利用ください。

詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1331-25855

森林研究所まで



再造林技術研修を開催しました



■下呂農林事務所 林業課
林業普及指導員 河原 誠二

樹形異常の発生

令和2年にヒノキを植栽し、ツリーシェルターを設置した事業地において樹形異常が発生したと報告を受けました。

獣害対策としてツリーシェルターの設置を選択する事例が増えてきていますが、ヒノキでの事例が少ないため、情報収集を目的に岐阜県森林研究所(以下…研究所)に問い合わせをしました。

研究所でもヒノキに対するツリーシェルターの影響を調査した事例が少なく試験地を設定したい意向があることが分かりました。

そのため、管内でヒノキの樹形異常が発生した事業地内で試験地を設定することに協力することになりました。

研修の企画

研究所が試験地を設定することを好機ととらえ、管内の森林技術者を対象とした再造林技術研修を開催しようと考え、次のとおり企画しました。

○獣害対策

・ヒノキにツリーシェルターを設置したことにより樹形異常が発生した状況を観察し問題点を

・ツリーシェルター以外の獣害対策技術について学ぶ。

○森林土壌

・植栽樹種選定のため重要な森林土壌を観察し土壌型を判定する。

講師は獣害対策については研究所の片桐主任研究員、森林土壌については茂木部長に依頼しました。

また、先行的に主伐・再造林に取り組んでいる国有林の知見からアドバイスを得るため林野庁中部森林管理局岐阜森林管理署と森林技術支援センターにアドバイザーとして出席を依頼しました。

また、県内の情報を得ること、管内の被害対策の状況について知ってもらうことを目的に、岐阜県林政部森林経営課にも参加を呼びかけました。

研修の開催

研修を開催した令和4年11月29日は雨となつてしまいました。管内の森林技術者5名の参加を得て開催しました。

○獣害対策

研究所片桐主任研究員から獣害防止対策のうち、忌避剤散布、ツリーシェルター、防護柵のメリット・デメリットについて説明を受

けた後に意見交換を行いました。



意見交換の様子

意見交換では、「ヒノキの成長特性を考えると、ツリーシェルターの設置によつてスギよりも樹形異常が発生しやすいと考えられる」「ツリーシェルターは樹形異常、風雪による破損があるため維持管理が必要」「柵は急傾斜地や谷地形で壊れやすく、定期的なメンテナンスを行わないとシカに侵入されると」「柵の網目は5cm以下にしないとウサギに侵入される」といった意見が出されました。

ただ、それぞれにメリット・デメリットがあるため、今後も管内の関係者で情報共有を図り有効な対策をとるようになることとなりました。

意見交換後、ツリーシェルターの設置により樹形異常が発生したヒノキの様子を観察しました。



ヒノキの樹形異常

○森林土壌

当日は雨のため、残念ながら土壌断面を観察することができず、土壌層位を観察することはできませんでした。森林土壌を学ぶには悪条件でしたが、現地で研究所茂木部長からA₀層(落葉層)とA層腐食を含む鉱質層)の違いについて説明を受け、植栽を行う時はA₀層を十分に取り除き鉱質土壌に植える必要があることについて学びました。



A₀層とA層の違いを学ぶ

●今後の対応

管内はヒノキの産地であるため、再造林でもヒノキが植栽樹種として選択されることが想定されます。

研修開催地の試験地でヒノキ人工林でのツリーシェルター設置の影響について調査が行われ、その結果を技術普及に反映させるべきではあるのですが、樹形異常が発生した事実があるため、下呂農林事務所では獣害対策の選定は、定期的見回り等のメンテナンスが必要で管理が大変ではありますが防護柵を管内の事業者や森林所有者には薦めていくことになりました。

ただ、研修の時の意見交換でもあったように様々な獣害対策に一長一短があることから、管内の関係者と連携し獣害対策の情報収集を行い適切な対応をとれるようにしたいと考えています。

岐阜県では第4期森林づくり基本計画で主伐・再造林について取り組むこととしています。

収穫までの期間が長い林業では適地適木が低コスト再造林に有効ですので、多くの管内の森林技術者が適地適木の判断が行えるよう造林技術研修を行いたいと考えています。

また、獣害対策も重要ですので造林技術と併せて研修を開催したいと考えています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0576-521-3111

下呂農林事務所まで

スマート林業通信 34

OWLの使い方を再確認してください

森林3次元計測システムOWLの開発者である株式会社アドインの研究所から使用方法を再確認しました。みなさまもOWLの使い方を再確認してください。

①GPSを受信できていますか？

写真の液晶画面をご覧ください。

スタンバイの左側に山印が表示されていますか？この山印がGPSを受信している表示です。山印が表示されていることを確認して計測を行ってください。



②OWLマネージャー(アプリケーションソフト)を最新版に更新してください。

OWLを購入したときに添付されていたログイン情報通知書に記載されたユーザ名とパスワードでOWLユーザサイトにログインして、最新版に更新してください。令和4年度中にバージョンアップされると聞いています。

③アドイン研究所がOWL+AR(拡張現実)により、現地のリアル

タイム映像に樹高等の情報を付加して表示するサービスを開発中です。

具体的にはOWLで解析したデータをSDカードに保存して、現地でホロレンズ(スマートグラス)を介して森林(立木)とOWLデータを重ね合わせて見ることが出来る機能です。

現段階ではOWLで解析したデータを現地で見るだけの機能しかありませんが、今後は現地で間伐木の変更などデータ入力ができる機能を追加したいという開発目標をお聞きしました。



OWL+ARイメージ

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0575-1351-2535

森林文化アカデミー

スマート林業推進係まで

国有林における 貴重な森林生態系の保護への取組

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息する場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、こうした貴重な森林を「保護林」として設定しています。

また、生物多様性の維持・保全や気候変動の影響への適応等の観点から、保護林を中心とした森林生態系ネットワークを形成して、野生生物の移動経路を確保するため「緑の回廊（コリドー）」を設定しています。

●保護林の区分

保護林は設定目的や規模等に応じて3つの区分に分かれています。

①森林生態系保護地域

それぞれの地域の気候帯又は森林帯を代表する原生的な天然林を保護・管理

②生物群集保護林

地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理

③希少個体群保護林

希少な野生生物の生育・生息に必要な森林を保護管理



イメージ図

●岐阜森林管理署管内の保護林と緑の回廊

【生物群集保護林（3箇所）】

①三周ヶ岳ブナ（揖斐川町）

徳山湖の上流で三周ヶ岳周辺に位置するブナを主体とする広葉樹天然林

②能郷白山ブナ（本巣市）

能郷白山にあるブナを主体とする高年齢天然林

③御岳（下呂市）

御嶽山の山頂に近い火口カルデラ、火口湖、噴気口など数多くの特徴を持った地形、地質とこれらの地形に起因する植生、希少種の生育地、亜高山帯から高山帯に植生が移り変わる植物の垂直分布を見ることができると特徴的な森林

※保護林の区域は、管外の高山市、長野県木曾町、王滝村に跨がる。

【希少個体群保護林（4箇所）】

①イボラスギ遺伝資源（郡上市）

井洞国有林に群生する伏条性の強いイボラスギ等で構成される天然林

②金華山アラカシ・ツブラジイ遺伝資源（岐阜市）

金華山国有林に群生しているアラカシ、ツブラジイ等で構成される天然林

③岩の子ブナ（本巣市）

根尾西谷川の支流岩の子谷の上流部にあるブナを主体とする高年齢天然林

④赤沼田天保ヒノキ（下呂市）

赤沼田国有林にある天保年間に植栽されたヒノキ等の人工林

【緑の回廊（1箇所）】

①越美山地緑の回廊

管内の3つの保護林（三周ヶ岳ブナ、能郷白山ブナ、岩の子ブナ）と福井県内の保護林2箇所、滋賀県内の保護林1箇所を結ぶ森林。

国内希少野生動物植物種のヤシヤゲンゴロウ、日本海側特有のブナ林等が見られるほか、国指定特別天然記念物のニホンカモシカをはじめとした様々な動物達の移動経路となっています。



越美山地緑の回廊区域図

（岐阜森林管理署）

国会議事堂への県木「イチイ」植栽(後編)

国会議事堂の前庭に植栽されている岐阜県の木「イチイ」の植え替え作業について、2月号(No.833)では、土壌調査までをお伝えしましたが、今回はその後編となります。

まず、新たに植栽するイチイの調達先ですが、これまでは県の育種場で育てられたものを使用しました。植栽時には樹勢も良く、特に問題となるような事は見受けられなかったのですが、調査の結果、側根が少なく細いことがわかったことから、念のため前回とは異なる場所から調達することにしました。

植栽するイチイは、県の木にも関わらず、なかなか県内での調達先が見つからず苦労しました。諦めかけていたところ、飛騨高山森林組合から寄贈をいただけることになりました。



林政部長から飛騨高山森林組合へ感謝状贈呈

寄贈いただいたイチイの植栽は、木の休眠期間とされる2月に行いました。

調査の結果、深さ30cmを超えると根茎の侵入が困難なほど土壌が硬いことが分かっていましたので、植栽穴は直径1mと大きめに掘りました。さらに

底部には土壌の透水性・通気性の改良を目的とした黒曜石パーライトを敷き、地上までパイプにより通気口を確保しました。



透水性・通気性確保のための土壌改良

その後、歩道から見た時のバランスの良さなどを考えながら植栽するイチイを配置し、土砂の埋め戻しと水やりを3回に分けて繰り返し、最後に集水するための水鉢を作って完成となりました。

植栽工事は、朝から夕方近くまで丸一日を要しましたが、その間も修学旅行生などが地元の木を探しながら遊歩道を散策していました。

春、温かくなる頃には新芽が芽吹き、元気に成長するイチイを見られると思いますので、皆さまも国会議事堂に行く機会があれば、前庭を散策し、県木「イチイ」を探してみてくださいいかがでしょうか。



植栽したイチイ

【林政課 政策企画係】

森林・林業関係イベントカレンダー(4~5月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所 申込(問合せ)先/TEL
4月12日(水)~ 4月14日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	●講習時間: 12日 学科 8:50~17:10 13日 学・実 8:50~12:00 14日 実技 8:30~17:40 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 23,870円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	12日(学科) 13日(学・実) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 14日(実技) 櫛木の国土場(山県市椎倉 203-1) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
4月18日(火)~ 4月21日(金)	フォークリフト 運転技能講習 受講資格 自動車普通運転 免許所持者	●講習時間 1日目 学科 8:45~17:05 学科試験 17:10~18:10 2~4日目 実技・試験 8:00~17:30 ●申込: 開催日の20日前まで ●受講料: 32,450円(本代含む)(振込み) ●定員: 20名(定員になり次第締め切ります。)	(学科) 伊自良中央公民館(山県市大門 850-67) (実技) ぎふ農協 旧伊自良共選場(山県市洞田 127-5) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
4月27日(水)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間: 学科 8:55~15:20 実技 15:30~16:30 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 11,550円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
5月10日(水)	チェーンソーを用いて行う 伐木等の業務従事者 安全衛生教育 (3~5年従事者再教育)	●講習時間: 学科・実技 8:50~16:50 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 12,430円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
5月16日(火)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間: 学科 8:55~15:20 実技 15:30~16:30 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 11,550円(本代含む)(振込み) ●定員: 40名(定員になり次第締め切ります。)	J A ひだ吉城営農センター(飛騨市古川町上野 571-1) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
5月17日(水)~ 5月19日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	●講習時間: 17日 学科 8:50~17:10 18日 学・実 8:50~12:00 19日 実技 8:30~17:40 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 23,870円(本代含む)(振込み) ●定員: 40名(定員になり次第締め切ります。)	17日(学科) 18日(学・実) J A ひだ吉城営農センター(飛騨市古川町上野 571-1) 19日(実技) 県森連飛騨林産物共販所(高山市新宮町 112-7) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム

令和4年度もコロナ禍が続きましたが、日常を取り戻す動きも見られはじめ、そんな中、令和4年11月に大分県で開催された全国緑の少年団活動発表大会に海津市の城山小学校みどりの少年団が出場できました。この大会には、全国で5団程度が選ばれますが、岐阜県では、平成30年から長島小学校、北方小学校、東白川中学校、中野方小学校、城山小学校と5年連続で選ばれました。私たち岐阜県緑化推進委員会も大会は同行しましたが、子どもたちが緊張するにも関わらず、元気に発表する姿には、いつもながら胸を打たれます。令和5年も6年連続を目指して、チャレンジするとともに、みどりの少年団の皆さんが元気に活動され、新たな発見を見つけてほしいと思っています。

「森林のたより」編集委員 黒崎 隆司

イベント情報

連載

●山の歳時記(213) ●山のおじゃまむし(382)

地域の人

清流と森と親しむ ●森林と人を活かす知恵(124)

木と親しむ

●岐阜県の公共木造建築(122)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術 ●研究・普及コーナー

市況情報

その他

5月1日発行

5月号
予定

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所 単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配	
第1817回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	16,700	—	↘	
			16~18cm	15,400	—	↘	
		4 m	20~22cm	16,200	—	↘	
			24~28cm	16,200	—	↘	
			30cm以上	15,300	30,700	↘	
	3月14日	6 m	16~18cm	—	—	↘	
			ひのき	3 m	16~18cm	23,100	—
		20cm以上	20,700	30,000	↘		
		4 m	16~22cm	22,200	—	↘	
			24~28cm	19,900	—	↘	
30cm以上	19,700		34,000	↘			
6 m	16~18cm	—	—	↘			
第1404回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	17,000	—	→	
			24~28cm	16,000	—	→	
		30cm以上	15,000	—	→		
	ひのき	3 m	16~18cm	23,300	—	→	
			20~22cm	22,000	—	→	
		4 m	24~28cm	19,900	—	→	
			30cm以上	19,700	350,000	→	
			6 m	16~20cm	30,000	—	→
	3月8日	ひめこ	4 m	24~28cm	15,000	—	→
			30cm以上	15,000	33,300	→	
5 m		30cm以上	—	—	→		
くり	4 m	24cm以上	15,000	29,400	↗		
第1736回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	16,500	—	→	
			24~28cm	15,800	—	→	
		30cm以上元	15,000	28,000	→		
	ひのき	3 m	16~22cm	22,000	—	→	
			24~28cm	19,800	—	↘	
			30cm以上元	25,000	50,000	→	
		4 m	13cm以下	10,000	—	→	
			24~28cm	19,000	—	↘	
			30cm以上元	25,000	70,000	→	
			6 m	18~22cm	31,500	—	→
3月9日	まつ	4 m	22~28cm梁	—	—	→	
		30cm以上元	11,000	—	→		

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギは全体的に軟化気配のなか横ばいを堅持したが、弱含みの気配。スギ4m元木、尺上良材は応札多数。スギラミナ向け3m・4m材は保合であるが、弱含みの気配。ヒノキ元木、尺上良材3m・4m役物取りは引き合いが強い。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。高値はスギ5m×54cm@49,200円、スギ4m×54cm@30,700円(岐阜)

ヒノキは尺以上の大径木に高値がつき、県内外からの引き合いが多数で強気の展開。ヒメコマツは応札旺盛で特に4m×30cm以上に人気が集まった。広葉樹はどの樹種も引き合いが強く特に大径木は人気がある。高値はヒノキ4m×62cm@350,000円、ヒノキ4m×58cm@150,000円、ヒメコマツ4m×58cm@33,300円、クリ2.1m×36cm@42,300円、ナラ2m×34cm@46,000円、ホウ2m×40cm@31,000円、サクラ2m×32cm@38,100円(飛騨)

寒切り材も最終盤となり、優良材には手当て集まり活気のある入札となったが、全般的には製品市況の軟化を背景に、様子見の展開となった。ヒノキ元木良材2m・3m・4m尺上、40cm上役物は引き合いが強く、強保合。3m柱向け(14cm~24cm)は相場を堅持したが弱含み基調。4m中目は、売りづらさもあり弱保合での展開となったが、役物向けの価格は安定している。スギ4m中目尺上元木良材は保合で推移。3m・4m構造材向けは軟化気配であるが、相場を維持し保合。合板向けは、製品荷動きが鈍く弱基調、特にヒノキ、カラマツについては原木受け入れ調整等さらに注視が必要。(東濃)

製品卸売標準価格 (2月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	85,000	(2,811)	↘
	間柱	3000	105	30	1等	85,000	(803)	↘
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	↘
	柱	3000	120	120	特等	85,000	(3,672)	↘
		6000	120	120	特等	165,000	(14,256)	→
W集 ウ成 材	柱	3000	105	105	国産5層	115,000	(3,800)	↘
		3000	120	120	国産5層	116,000	(5,000)	↘

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (2月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	486	↘
	コースト(目荒)	489	↘
米楡	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに? ~木材用語~

日本農林規格(JAS)

Japanese Agricultural Standard (JAS)。「農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律(JAS法)」に基づいて、農林物資の①品質の改善、②生産の合理化、③取引の単純公正化及び④使用又は消費の合理化を図るため、農林水産大臣が制定した日本農林規格による検査に合格した製品にJASマークをつけることを認める「JAS規格制度」と、一般消費者の選択に資するために内閣総理大臣が制定した品質表示基準に従った表示をすべての製造業者又は販売業者に義務付ける「品質表示基準制度」の2つからなる。製材(構造用、造作用、下地用)、合板、集成材、構造用木質パネル(含むOSB)、CLTなどがJASで規定されている。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典